

対面が難しかったら、オンラインにしよう

陳碧盈
CHEN BIYING

私はコロナの厳しい時期に、ギリギリ渡航した。成田で十四日間の自粛が終わったら、熊本に到着して、やっと新しい友達に出会えて、充実した留学生活が始まると思っていたが、実はそうではなかった。コロナのせいで、緊急事態宣言が長く続いていた中、学校もなかなか行けなくて、買い物でしか出かけなかったため、人と接触する機会がなかったし、友達もあまりできなかった。元々は明るくて、人と交流するのが好きな私にとって、このような生活は苦しかったと思う。

対面の交流が難しかったら、オンラインでも行けるのではないかと思いながら、学校や政府や各自治体が行っているオンラインイベントを探して、参加した。オンラインイベントに参加すると最初は少し迷った。向こうの人も全然知らないし、何を話すかも分からなくて、自分の考えを向こうに伝えられないことを心配した。しかし、参加したからといって必ずしも友達ができるわけではないが、参加しないと絶対友達ができないと思い、各オンラインイベントに出席した。

熊本大学が行う日本人学生とのオンラインラーニング・コモンズは毎日開催さえる。先生も日本人学生もやさしく、毎回楽しく終わった。日本人学生との交流で、日本語練習をサポートしてもらえるだけでなく、ニュースや社会的な問題に対する意見も交換できる。コミュニケーションの場というより、ミニゼミといったほうがもっと適切だと考える。また、生活や勉強に問題があっても、学生にきくことで解決策をもらえる場合もある。

オンラインラーニング・コモンズは私にとっては、ただの日本語練習の場所だけではなく、パワースポットのような存在だと思っている。

オンラインラーニング・コモンズのほかに、熊本大学国際教育課が開催したオンラインウェルカムパーティーにも参加した。先生と日本人学生たちがいくつかのゲームを準備して、会場を盛り上げてくれた。ゲームを通して、参加者たちは親しくなり、話も楽しかった。このイベントで日本人学生と話し合えたほか、他の国の留学生とも知り合えた。最後の交流ルームで、日本にまだ来ていない留学生と知り合って、連絡先も交換して、日本に来たら一緒に食事しようとも約束した。最近、入国は難しくなったが、対面できる日を待っている。

以上のようなイベントに参加する前は、とても迷ったが、参加してみたら、参加してよかったと考えている。オンラインイベントによって、コロナの生活でも友達ができることが分かった。こうしたことで、心の憂鬱がなくなって、明るくなり、新しい生活に期待できるようになった。もし、私と同じ悩みを持っているなら、積極的にオンラインイベントに参加するのがお勧めだ。すべての道はローマに通ず。対面が難しかったら、オンラインにしよう。